

水資源の保全

水ストレス地域における水資源使用の取り組み

日本光電では、事業を展開する各地域における水ストレス地域の特定とリスク評価を行っています。WRI（世界資源研究所）が開発した水リスクマップ Aqueduct で確認したところ、全18拠点、他の地域と比較し相対的に水ストレスの高い地域であることがわかりました。現時点では、水ストレス地域において水に関する問題は顕在化していないものの、引き続き、各地域の規制に適切に対応するとともに、水の適正使用や効率使用、安全供給に取り組んでいきます。なお、生産を行っていない一部の海外販売子会社では実績値を取得できていないことから、現在データ収集を進めています。

米州	アメリカ、メキシコ、ブラジル (6拠点)
欧州	ドイツ、イタリア、イギリス、スペイン (5拠点)
アジア州	インド、アラブ首長国連邦、韓国、中国 (7拠点)

水管理計画

日本光電では、血球計数器の試薬を生産していることから、マザー工場である日本光電富岡における取水量が全体の46%を占めています。日本光電富岡では、試薬の生産に必要な水使用量の年間目標を設定するとともに、取水量と排水量を把握し計画を超過しないよう適切に維持管理することで、水資源の有効活用に努めています。

TOPICS

日本光電は、中期経営計画において「脱炭素社会の実現」をサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）の1つに掲げ、取り組みを強化しています。この課題解決に向け、各業務プロセスにおける生産性向上や省エネルギー施策の推進、再生可能エネルギーの導入拡大、社用車のハイブリッド車への更新を進めています。環境配慮型製品売上比率20%以上を目指し、2022年度は18.2%を実現しました。これからも、環境配慮型製品の提供に加え、既存製品のリサイクル、リサイクルしやすい新製品の開発に取り組めます。また、国内・海外の各拠点におけるエネルギーデータ等の環境情報を管理するシステムを新たに導入し、サプライチェーンとの協働を進めることで、ライフサイクル全体のCO₂排出量を削減し、気候変動や資源循環など環境課題の解決に向けた取り組みをより一層推進します。